

## (5)小学校社会科見学 主な指導資料

### ア 昔の暮らし プランA

#### 1 ねらい

昔の道具やそれらを使っていたころの暮らしの様子について調べ、人々の生活の様子が道具とともに移り変わってきたことや、人々の暮らしの知恵や工夫、願いについてとらえることができるようにする。

#### 2 副読本「わたしたちのまち さやま」の単元

身のまわりの古い道具 3年生 P100～101

#### 3 学習内容

- (1) 昔の道具と今の道具とのちがいをくらべてみる。
- (2) 道具と暮らしのうつりかわりについて年表等にまとめる。
- (3) 古い道具が使われていたころの暮らしの様子をしらべてみる。
- (4) 養蚕について知る。

#### 4 博物館での学習

- (1) 博物館にある昔の家の様子や道具等に関心をもち、現代の家や道具との違いについて知る。
- (2) 昔の道具やそれらを使っていた頃の生活について、展示品や学芸員の話聞き、ワークシート等にまとめる。

#### 5 博物館の資料【常設展示】

狭山の農家と屋敷 41 むかしの農家の生活用具 51

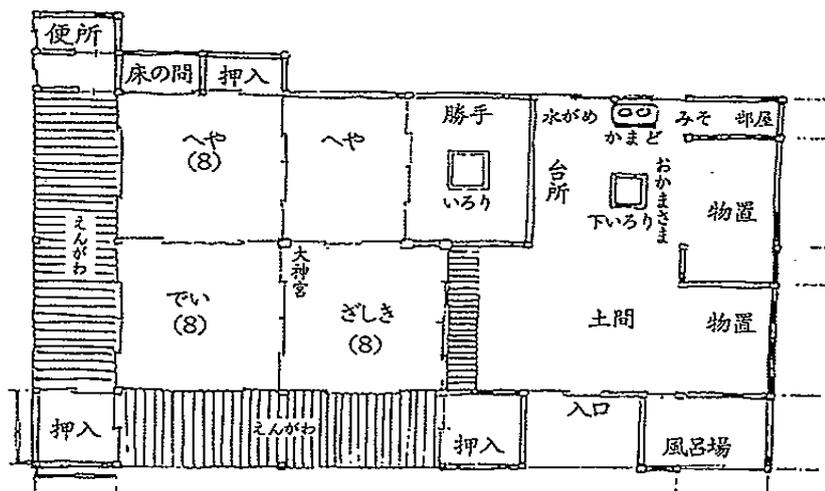
#### 6 単元の観点別評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の道具などの時期による違いについて地域の人々からの聞き取り調査や博物館での実物資料を調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、人々の生活の様子を理解している。</li> <li>・調べたことを年表や文などにまとめ、人々の生活の様子は、時間や経過に伴い、移り変わってきたことを理解している。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の道具や写真などの資料から学習問題を見いだして追究し、人々の生活の変化や人々の願いについて考え、適切に表現している。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の道具の移り変わりについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</li> </ul>

## 7 指導資料 博物館常設展示 展示品

### (1) 狭山の農家

狭山地方の古い農家建築は、日本の多くの建築と同じように「田の字型」の部屋割りと土間、台所などで構成されています。地区により、また各家の経済力や格式によって多少の違いは見られますが、おおむね同じような様式の建物で格式の違いは欄間や障子、ふすまなどの建具にあらわれています。屋敷内には母屋のほかに蔵や、物置、養蚕のための建物などがあり、その配置は母屋の方位を中心に決定され、建物の向き、便所や井戸の位置にもそれによってきめられていました。屋敷には屋敷神として「稲荷様」をまつことが多く、母屋のカマドの神として「おかま様」がいろりの神として「荒神様」がまつられていました。



昭和のはじめころの家の中

(2)昔の家の中の様子

【囲炉裏】 家の中の床の一部分四角く取り除いて、灰をしいて、まきや炭をもやしました。囲炉裏は食べ物をにたりやいたりするためだけではなく、部屋の中をあたためます。また煙に含まれるススにより、屋根の材料のカヤやワラを長持ちさせる効果もありました。

つづら

柳行李 衣類や身の回りの品々を入れておいたり運搬するのに用いた長方形の籠の一種

蠅帳 はいちよう 梅雨時から夏にかけて、風通しをよくして食物の腐敗を防ぎ、かつ蠅除けとする道具。

硯箱

ねずみいらす 箆筒  
ねずみが入らないように作ってある茶箆筒



ラジオ

おひつ入れ

はくちようびん

ちゃぶ台

アイロン

薬研 主に漢方の薬種を細粉するのにつかわれる。

湯たんぽ

ごとく 五徳  
囲炉裏や火鉢の中の灰の中に据え、鉄瓶、薬缶、釜などをのせる道具

火消しつぼ

鉄瓶 火鉢や囲炉裏で五徳に載せたり自在鉤にかけて飲用の湯を沸かす鉄製の器

自在鉤 囲炉裏の上に吊るし鍋や薬缶 鉄瓶を掛けるもの

箱膳 食事をするときに使いました。フタを裏返すとお膳になります。箱の中には一人分のお椀やお箸が入っていて、各自の箱膳がありました。(江戸～昭和初期)膳の一種で使用時に蓋を裏返しにして箱の上に置いて使う。箱の中に一人分のお椀、箸、皿などを収納した。



革製トランク

御膳(折りたたみ式)

**蓄音機**

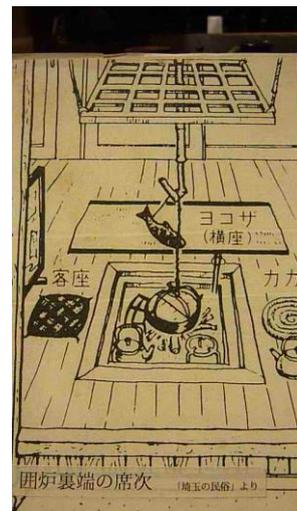
レコードを聴く道具でハンドルを回してゼンマイを巻くとレコードが回ります。



**火鉢** 炭を利用した暖房器具。中に灰を入れ、炭火を入れて使いました。形は丸いものだけではなく、長火鉢や角火鉢といった形のものもある。



**行灯** 部屋の照明器具で、江戸時代に広まった。木の枠に和紙を貼り、風邪で火が消えないように作られています。中に油を入れた皿を置いて、灯りをともたが、今の照明と比べると、とても暗いものであった。使われた油は主に菜種油や魚油(おもにイワシの油)を使用していた。





かまど様(荒神様)



かまど

**洗濯板とタライ**  
洗濯板は明治時代に外国から入ってきたもので洗濯機が登場するまで使われた。左手で洗濯物をおさえ、右手で洗いたい部分をつかんで、ごしごしこすりつけるようにして洗う。

**七輪**  
煮炊きに使う移動式の小形の炉で江戸時代、屋根瓦を焼く職人によってつくられたのが始まり。内側の下の方にすのこが入っており、その下部に空気孔が切ってある。燃料の炭をすのこの上に入れ、空気孔の開閉具合で火力を調整する。七輪の名は、七里分というわずかの量でご飯が炊けたからとも、炉が七厘で購入できたともいわれる。燃料は炭が多い炭の粉を丸めた炭団や練炭もある。



**石臼**  
そば、大豆、小麦、玄米などをすりつぶして粉にする道具。上の石の穴に粉にする大豆などを少しずつ入れて上の石だけゆっくりと回すと上の石と下の石の間から粉となって出てくる。



杵と臼

引用参考 「民具の事典」河出書房 2017

身の回りの古い道具

小学校	年 組	名 前
-----	-----	-----

◇何に使う道具かな？

博物館の「昔の暮らし」の展示物を見て、A～D の道具の名前を記入してみよう。  
 展示してある実際の道具を見て確認をしよう。

A ご飯を食べる時に使う道具	箱膳	おひつ入れ	てつびん
B 洗濯に使う道具	洗濯板	タライ	
C 温める道具 明るくする道具	火鉢	湯たんぼ	行燈
D 音楽や情報を聞く道具	蓄音機	ラジオ	



湯たんぼ



ちくおんき



タライとせんたくいた



火ばち



ラジオ



おひつ入れ



あんどん



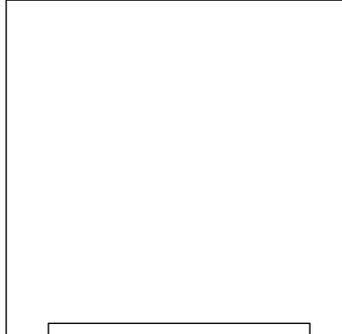
はこぜん



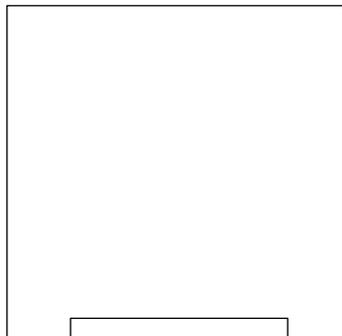
てつびん

昔の道具と今の道具を比べてみよう。同じ役わりを持つ道具でも昔と今とはどちらがうのか調べてみよう。

明治・大正



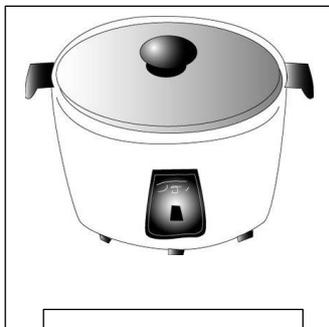
火ばち



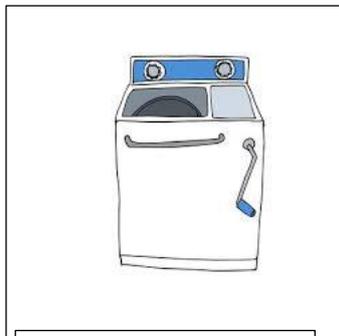
昭和



石油ストーブ

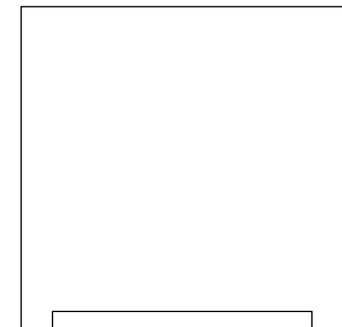
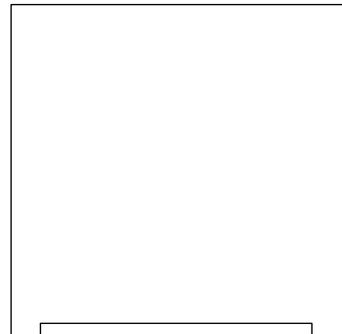


電気すいはん器

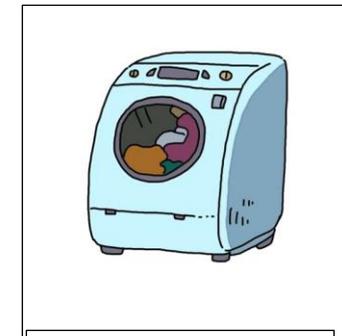


しぼり機つき洗濯機

平成・令和



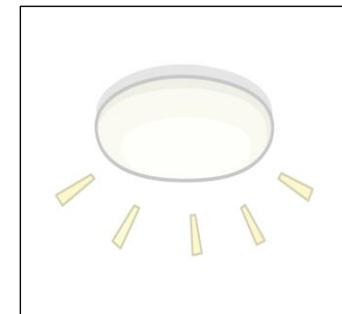
IC すいはん器



ドラム式せんたく機



オイルランプ



LED 照明